

上で、自分の意見を述べさせて貰ふことを請ひ、直に許される。

委員長は開會に當り、此の事件は本會の任務であるが、直接學校經營に影響を及ぼすものであるから、學校長の意見も尊重して、十分に熟議を凝らして欲しい希望を述べる。會の大體の傾向は、ネビテイ嬢は久しく勤続した當然の報酬として、アマアブル嬢の後任となすべきである。校長の推擧者の様な資質を備へて居らぬにしても、喜んで校長の教育方針に協力するであらうとは、大體の意見である。リヴァース氏は之れに答へて、『彼女は喜んで協力してくれることには、少しの疑をもちませぬ。併し幼稚部の主任は、年功によつて定むべき問題でなくて、能率によつて決すべき問題である。ネビテイ嬢は少年部の教師としては、申分のない立派な方と思つてゐますが、幼稚部の教師としては全く絶望です。皆さんがネビテイ嬢を推擧せられますのは、従來の慣例に従はれたものでありまして、無理もないことと思ひます。併し、學校教育特に無頼漢や酔つたくれや放縦者や空威張者の多い區の教育、將來の良市民を養成せねばならぬ責務を持つて居る學校教育に於て、最も大切な幼稚部に不適任者を採用するといふことは、全體の教育を麻痺せしめるもので、容易ならぬことと思ひます。皆さんは教育の良結果を要求

せられるのですが、學校長の教育方針に有効に協力し得る資質を持たない教師を採用せられましては、御要求せられるやうな結果を収めることは頗る困難であると信じてゐます』と、熱誠面に溢れて居る。

大抵の委員達は、校長の意見に同情を持つて居たが、それと明らさまに言ひ得ない譯は、委員改選期は近々中に迫つて居るので、若しへまなことを言ふと落選の憂ひがある。選挙は自治體の劇樂である。配劑宜しきを得なければ、無きに勝る害を及ぼすものである。委員達が最後の決定に入るので校長は退席する。秘書のドン・ブラツクは會議の傾向を察して頗る困惑して居る。彼と委員長は校長の意見通りにしたのであるが、大多数は明かにネビテイ嬢を推擧しなうな雲行である。そこで秘書官は獨特の氣轉をきかして委員達に相談する。『最後の決定を下す前に、校長の意志を確かめておく必要はありますまいか。即ち若しネビテイ嬢を採用したとすれば、校長は、嬢と一致協力してゆく考か、又は傍觀する考へかを聴いておくことは大切であ

りますまいか』此の提案は秘書官の外交的手腕であつて、誠に上出来なものであるが、委員達は深い考への含まれて居ることも知らず、丸呑みにする。

委員長は氣持のよい態度で、リヴァース氏に尋ねる。校長の答に、

「皆さん、私は餘りにシツコク自説を固執するのをお許し下さい。之は私にとつては誠に大切な、そして嚴肅な問題なのであります。若しも幼稚園部に適任者が得られませんでしたら、優良な學校にすることは頗る困難であると思ひます。それで、私は既に決心してゐます。若しネビテイ嬢が採用せられますなら、私は退かせて戴きます。私は本日他區の教育當局から、補習學校長に招かれてゐます。皆さんは私の要求をお容れ下されないなら、私は招きに應じようと決心して居ます」。

委員達は、之れをきいて如何にも困つたらしい顔をする。校區に信用の厚い校長を轉任せしめた事情がわかると、列席してゐた委員達の再選の見込が覺束ないからである。委員長は機を逸せず、

「諸君、如何に決定すべきかは明確になつたことと思ひます。鐵は熱い中に打てといふ金言に

従ひまして、即決致しましては如何でせうかと、急所を握て促すので、クキーン嬢は全會一致で推舉せられる。秘書官のドン・ブラツクとリヴァースはニツコリと目を合せる。

當局を征服したりヴァース氏は、更に校内を征服せねばならぬ。選に漏れたネビテイ嬢は鬱々として樂まず、之れに同情する教師も少くない。固より嬢は追ひ越されたクキーン嬢に、事毎に反對の態度をとる。かうして職員的一致はだん／＼影が薄くなり出す。職員の花飲話に校長を攻撃する者もあり、之が漸次生徒に傳染し、生徒も何れかに味方するやうになる。職務上の嫉妬によつて幾多の名校長は手を焼き、優良學校は總崩れとなつた例は世に少くない。幸に首席のサースト君と助教のグラウス君とクキーン嬢は、公平無私の態度で、學校のため教育のために全力をあげて盡してくるので、校長は多少心を安んじて居たが、龜裂が餘り大きくならぬうちに、不平黨を粉碎しようと思ひ決する。そこで校長はネビテイ嬢の轉任を當局に話して直に聞き容れられ、彼女は間もなく少しばかり昇給して轉任する。校長は之れを機會に全職員

を集め、露骨に「ネビタイ嬢は轉任になりましたから、馬鹿けたこともスツカ止めて貰ひたい。吾々の任務は教育であつて不平ではない。不平な方がありましたなら轉任を申出でられたい。私は教育の進展に連關して、小學校教師の地位を高めることに努力して居る一人である。小學校教師が先づ職務上の嫉妬を去り、教育向上のために一致協力せねばならぬ。内部から角の突き合ひをするから、外部から悔りを受けるのである。私は教育界から不信實不平者を驅逐して先づ内を固めねば、教師の地位の高上は百年河清を待つやうなものと信じて居る。諸君も教育といふ神聖な仕事のために、小さな私を犠牲にして大きな私に生きていつて欲しいものである。』所謂馬鹿氣た事は直に止む。

クキーン嬢は、助手と共に幼稚園の經營に當る。範を當時蘇格蘭で有名なハミルトン嬢にとる。幼稚園に於けるハミルトン嬢の成功は、最新流行の理論ではなくて、慈母の如き愛と忍耐と親切と厭はざる勤勞のためである。幼稚園に關して辯ずる者は少くないが、辯論の雄よりも

時計の如く勤める者が成功するので、間歇的勤勞、視學巡視前のやうな激浪的勤勞は成功の鍵である。ハミルトン嬢のやり方は、貧兒の大きな組には最も有効なものである。嬢はストウ、フレイベル、モンテツソリーに學んだところは少くないが、彼女の成功は寧ろ旺盛な精力と不斷の熱心に因るものである。

以上の秘訣をさつたクキーン嬢は、高き理想のもとに幼稚園の經營に着手し一ヶ月を出でないうちに著しい變化があらはれる。學校は旭のやうに輝き眞晝のやうに明るく、子供は花のやうに笑ひ鳥のやうに歌ひ、學校は彼等の樂園となり天國となる。教授は従來のやうに國語も匙、算術も一匙といふ所謂受動的匙教育に換へるに、自由と創造の教育を以てする。子供は自由に創造し、自由に發表し、自由の樂土に遊び、小言と鞭撻の家庭から、自由と創造の學校に來ると、地獄から天國に來たやうな喜びを感じるので、半時間も早く登校するやうになつたのを見ても、變化の程が察せられる。クキーン嬢は先づ彼等の悲しみを除去し、健康増進に勢力を集中する。此目的のために、出來得る限り郊外で遊び遊ぶことに努める。面白くて有益な遊戯を考案して、彼等の心にかゝる不快な雲を拂ひ去つて、春のやうな長閑な陽氣な心を持たし

めるやうに努める。實際貧兒は隅つこに這入りこみ、光りと教師と新しい友達を恐れ避けて、一向楽しく遊ばぬ者である。此のやうな孤獨的傾向を持つやうになつたのは、全く家庭の罪である。即ち母が仕事や飲酒や淫賣のために家を留守にして居る間は、子供を食卓の脚に繋いだり、椅子に縛りついたりして、薄暗い片隅に追ひやり、守番の祖母から小言を浴びせられながら育てられて来たよめである。私生兒に至つては更に甚しい。私生兒は厄介荷物の一種であるから、死ねよがしに投げ棄てられてあつて、誰一人世はする者もない。之れ等の親達には、學校は一日中厄介物を追ひやつて置く場處位の考へしか持つて居らぬ。教師の難儀苦勞は少しも知らぬ。安月給でありながら、生徒のために危険を恐れず、時には生命までも犠牲にした教師もあるが、一般民衆は教師の缺點を針小棒大に非難して、教師の美德を賞讃するに甚だ吝かである。教師は一般人の眼には、馬鹿者のやうに寫つて居るらしい。此の馬鹿者の手から幾多の偉人國士が出て居ることを見逃がして居るとは、偏見狹量、無智文盲の愚案といはれても甘んじて受けねばなるまい。

クキーン嬢の成功は、教育通の校長さへ驚嘆する位である。クキーン嬢は、今ではハミルト

ン、ワットソン、ポーター、ダンバー、キャムベルの諸嬢達と肩を並べるやうになつて居る。校長は幼稚部は教育の基礎を固める上に大切な處であるのみでなく、眞實の慰安所であることを發見する。それで、彼は疲勞すると何時のまにか幼稚部に遊びに来て、子供達が愉快に歌つて居るのを聞いて、何もかも忘れて居る。

子供は學校にくると毎朝ハンケチを見せる。顔と手と爪を調べられる。そして其の日の最も清潔であつた者は美しい花束を貰ふ。斯うして、今まで穢いことを穢いと感じなかつた子供は、漸次清潔を愛し、不潔を嫌ふやうになる。或日のこと彼等に「何ぞ學校が好きですか」を問ふて見たら、色々の答がある。

楽しいからです

お話が出来ますから

先生は美しい方ですから

小さな家を造つて遊びますから

校長先生は好きですから

先生は打ちませんから

詩歌の暗誦が出来ますから

好きな唱歌を習ひますから

先生は美しい寛衣フックを着て居られますから

馬の眞似して遊べますから

先生はお母さんよりも綺麗ですから  
 美しい花があるから  
 五月柱が好きですから  
 芝居の眞似が好きですから  
 縮れ毛のきれいな子供が居るから  
 先生はオヤツをくれますから  
 小さな花園が好きですから  
 面白い繪が書けますから  
 要するに學校へ來ることが楽しいといふのである。盡きない楽しみを引きづられて、學校に  
 くるやうになれば、教育もシメたものである。子供は暫くもデツとして居れないのが天性であ  
 る。此の活動性を有効に導くために、教師は遊戯、舞踊、作業を考案もし、又生徒に考案もさ  
 せる。彼等は五色の布片を手にながら、五月柱の周圍を樂器に合せて、エンゼルのやうに歌  
 ひ踊り、五月柱が五色に包まれてゆくのを此の上もなく喜んで居る。

一〇 所謂新しい若い先生

或る日の朝、リヴァース氏は、セツノと文書を處理してゐると、戸を叩く音がする。文書  
 に目をつけながら、

『お這入りなさい』  
 戸をあけて這入つて來たのは、片手に帽子を持つた青年である。如何にもフシダラ相に見え  
 るが、何處となく愛嬌のある男である。馬のやうな粗い茶色の髪の毛の馬鹿に大きな頭、額の廣い  
 明けつ放しな朴訥な顔、無造作な口髭、親切な眼は、青年の人格を暗示して居るやうに思はれ  
 る。

『先生、お早う』と、彼は舊知の如き親しさと快活さで挨拶する。  
 『お早う』  
 『私は當局から本校に轉任せよと命ぜられて參りましたドノヒューといふ者であります』  
 『お掛けなさい、ドノヒュー君。……君に關する公文書も來てゐます。君は前任地の校長とい  
 サコサがあつたので、轉任を希望したのであると聞いてゐますが、一體、どうしたんですか』  
 『性が合はないのです、先生。あの方は頭が古くてお話になりませぬ。それに私は一・二度遅  
 刻したもんですから』  
 『それでは君は反逆兒といったやうなわけですね』と、リヴァース氏は打ち解けた態度で言ふ。

「見當違ひの理想家です」。

「遅刻するのは、どの道、たちのよいものではないね」。

「私は教育には敏感な方ですが、生れつきの怠け者なんです。それに舊式のせまこましいお婆さんが、威張り散らしてゐて、教育上の自由を少しも許さぬやうな學校では、面白くないものですから、逆も早く出勤する氣にもなれませんのです」。

「それなら君は、間違つた學校に轉任して來たものですね。此の學校では他の學校よりも勤務は忙しいのです……」。

「それは承知してゐます。私は此の學校を希望したのは、あなたが賢明なお方で、進歩した教育を實施して居られると聞いてゐましたからです」。

「アモ、私は酷使する備主ですよ。此の學校では、今の流行の九時四時主義を排斥してゐます。教師はすべて放課後、社會教育に關係してゐます。一度でも遅刻すると、他に轉じて貰はねばならぬ學校なのです。それで此の學校は、多分君に満足を與へないと思ひますから」。

「それも能く承知して居ます。それで私が轉任を希望したのは、私は生れてまだ一度も、正

い善良な嫉といふ嫉を受けたことのない男なのです。私の缺點は鈍物でなくて我儘なのです。理想の高い時計のやうな規律的習慣の人、之れが今の私に痛切に要求してゐる人なのです。私は見かけのやうな馬鹿ではないのです」と、ドノヒューは眞面目に述べる。

リヴァース氏は、彼の眞面目な明けつ放しの話に、とう／＼吹き出して仕舞ふ。

「汝自身を知れといふ事は、古いけれども貴い金言です」と、ドノヒューは笑顔で言ひ足す。「尤もです。君は可なり自分を内省して居る。それは誠によいことであつて、又わるいことです。自らを内省して自らの缺點を矯正しようと努めるのはよいが、血氣盛りの青年が、内省のみ耽つて居るのは病的傾向で、よくないことです。君は師範學校から出たばかりだから、モット歡喜に輝き、精力に満ち溢れて居るべきである。然るに君に此のことの少いのは、多分、君は在學中にフットボール（英國の國技）をやつて、心身の均衡的發展をはからなかつたからでせう」。

「私は生れつきの怠け者です。それで先生になつたのです。先生になるべく資本入れして置けば、定期々々に一定の収入が這入つてきて、怠け者には、めて安全な投資と思ひましたから。

私は書物が好きです。書物代が欲しいのです。土曜日は寝そべつて、詩歌小説を読み、サッカーやトルストイを見ながら昼飯を食べたいのです。勿論私は、ふだんの日には教授することを非常に好みます。こんなわけで私は特にあなたの下で勤めたいのです。』

『君は中々變つた男だね。君の缺點は怠慢でなくて精力の集注持續に缺けて居るのである。此の缺點を何うして養つたのですか。』

『私はクリスマスのお祝ひで、目のまわる忙しい時に生れたのです。それに好奇心の盛んな頃は、トマス・ムーアの夢想國に讀み耽つてゐました。私の育つた家の前は往還で、朝早くからガタ／＼チャラン／＼と車や馬の鈴の音で騒々しく、それに後は汽車道で時々／＼と暴風と地震と一所に來たやうな音がしますので、八釜しくて家にゐては逆も心を落ちつけて、種の起源を讀んだり聖書を讀んだりして、哲學的宗教的思索に這入る氣になれなかつたのです。それでいつも家を飛び出して、氣の向くまゝに遊び呆けてゐました。能く近所の友達と、小便で土饅頭をこねて、商ひ遊びをしたものでした。それに私の親爺は、霜の朝は働かないといふ憲法を立てゝ居るやうな人で、母も亦ボンチ新聞や講談俱樂部を讀み出すと、足指で膝を搦んで

麥粥を掻きまわして居る人でした。私の無精なものもこれや彼れやが寄り集まつて出來たもので私一人の責任ではないと思つてゐます。』

リヴァース氏は、ニコ／＼しながら聞いて居る。

『師範學校ではそんな惡癖を矯正する機會はありませんでしたか。』

『先生、師範學校は、實際喜劇でした。私は何も知らぬ馬鹿で入學して、多少は物知りになつて卒業しましたが、それでもまだ半熟先生です。師範學校は學問に追ひまわされて居る大學校と女の尻を追ひまわして居る公立學校の間に出來た、私生兒といつたやうな學校です。女生が過半数を占めてゐます。あんなところでは、普通な者は、すべてアーノルド(大教育家)よりもドンチャン(遊蕩兒)になるのが當り前です。私も他の者と同様に、一週に一度位は、キッス遠足に出かけた者です。私はバイロン(詩人で又蕩兒)よりもモット餘計なことを知つてゐます』と、極めて平氣な態度で話して居る。

『ドノヒュー、脱線しすぎてはいけませんよ。』

『何だか頭が混線してきました』と、至極眞面目である。

「君の淡白には驚く。」

「其の淡白とか明けつ放しは、トルストイやゴルキーやチエホフのやうな露西亞ものを讀んだ因業なです。私は先生の前で、私といふ者を赤裸々に見て貰いたいのです。二重切符で先生の前を通りたくないのです。」

「併し、私は不真面目や不品行を賞揚すべきではないと思ふて居る。」

「先生、それは先生の誤解です。先生は私に私の缺點を説明せよと言はれましたから、私は思つて居るまゝを何んの包みかくしもせず申しあげたのです。そして私は先生になつてよい者か、馬鹿者で仕方のない者かを見定めて貰はうと思つてゐるのです。併し、私は前にも述べたやうに、見かけ程の鈍物ではありませんぬ。」

「君は誠に面白い又氣持のよい男である。君は君を知つてくれる人の有無によつて、如何ようにもなり得る素質を持つて居る。ただ一つ君の一大缺點は、君は空想の創造者であるが、其の主人公になり得ないことである。」

「私もさう思つてゐます。」

「さうでせう、私は君に望みをかけてゐるのは、其の點である。君が眞に自己解剖をするならば、其處から屹度勇氣と智慧が湧いてきて、君の缺點を救つてくれるに相違ない。併し君は君を救ふ道に氣づいてゐるが、救はうといふ意志に缺けて居る。それは、君が師範在學時代に、喫煙室の壁際の長椅子に寝ころんでゐて、競技場に出て泥だらけの馬鹿者にならなかつたのと卒業後も、室内ばかりに蟄居してゐるからである。君が若し新鮮な空氣を呼吸して競技に熱心であるなら、君の氣分は一變すると思ふ。」

「競技は人間を野蠻に導くものと思ひます。」

「自制の伴はない競技はその通りです。それと同じく、運動もせずに朝から晩まで、安樂椅子、葉巻、ニコチン、パイプ、書物、書物、書物、といふやうに自制のない生活は、蒼白い元氣のぬけた孤獨的な隠者のやうな者になり易い。沈黙がつづく。ドノヒューはデーツと考へて居る。」

「さうです。先生のお話の通りです」と、言つて又考へて居る。

「ドノヒュー君、私は君の缺點を好んで、摘發して居るのではない。君は折角、自分の缺點に氣づいてゐて、それから逃れる方法を知らないから、私がいろ／＼と私の考へを述べて居るの



です。リヴァース氏は更に言葉をついで、

「君の淡白な話に釣り込まれて、つい餘談に時間をとつてすまなかつた。話は最初に戻るが、要點は斯うなんです。本校の教師は誰でも一週に一回以上、社會教育に従事することになつてゐるのです。それは何んでも自分の好きなものをやればよいのです。君の好きなものは何んですか」

「寢臺に寝ころんで提琴を奏くことです」。

「君が一晩か二晩、提琴を奏いてくれるなら、それで私は満足です」。

「喜んで致します」。

其の晩、リヴァース氏は、ドノヒューの組はすべて集まり、恐怖に襲はれたやうな態度で、ドノヒューの奏琴に熱心に聞き入つて居るのを見る。奏き手は蓬髮大頭の醜男であるが、奏で出づる音は、「お許し下さい、お忘れ下さい」と、死霊が神に哀願してゐるやうに、泣くが如く

訴ふるが如く身入るやうな感じのものである。やがて調子は俄然一變し、悪夢から目ざめて愛と笑ひの狂はしい讚美にまで急轉する。聴き手の肩は伸び、胸は開き、浮腰になつて、身體で調子をとつて居る。

— 終り —

大正拾三年六月  
九日發行

定價金壹圓八拾錢

版權



所有

著者 吉田惟孝

發行者 岡本正一

東京市芝區西久保八幡町二五

印刷者 川城時造

東京市芝區愛宕町三ノ五

發行所

東京市芝區西久保八幡町二五

厚生閣

振替東京五九六〇番

てりよに者著じ同

ダルトン式學習の實施經驗

定價二圓三十錢  
送料十五錢

ダルトン式學習を實地調査して故國の教育家に纏まつた報告を提出した著者は、細心の注意を以て、此れを著者の學校に實施經驗し、其結果に基いて執筆したものが本書である、之式の學習を加味し或は實施しようとする教育實際家には必ずや有益な注意と警戒と方法と解決を與へるであらう。

改訂 增補 世界一人旅び

定價二圓三十錢  
送料十五錢

詩の國、夢の國として同時に生々しい現實の歐洲を偽らざる旅人の眼を通して寫し出した、新風物記。輕妙なユーモアと高き文明批評は隨所に躍り出て、知らず讀者を掌中異國の山水境に拉し出るのであらう。

—— 世界各地の寫眞六拾餘圖を挿入す ——

導訓校學範師等高京東

著 雄 春 葉 千

童 謠 と 綴 方

定價金壹圓八拾錢  
送料金拾五錢

現代の兒童が誤れる主智主義の教育によつて聖なる藝術への憧憬と詩の世界を失ひつゝあるを慨し、彼等の純なる人間性の擁護の爲め、詩操教育の本流たる童謠と綴方の新しき意義を提唱し、これが指導方法を説ける書

小 學 詩 の 讀 本

〔尋常五年上卷  
同 六年上卷〕  
定價各金八拾五錢  
送料 各 六 錢

星を讀へ雲雀を唄ひ得ぬ現代の兒童は半ば自然の幸福を失つた者か。餘りに冷智的な現代に只詩の世界のみ彼等を本然の人間につれ還る。童謠と散文詩！  
兒童の魂を自然の聲に憩はしむるは只詩の讀本あるのみ！

○ 低學年理科教授の理想と實際

澤柳博士 閣序

〔定價四・五〇〕  
〔送費二・三〇〕

○ 醫學上より觀たる兒童教育

宮入博士 譯

〔定價一・五〇〕  
〔送費一・三〇〕

○ 宗教文化の創造

日大教授 松原文學士 著

〔定價三・五〇〕  
〔送費二・一〇〕

○ 實際に即したる改正小學國史の教授

尋五 佐々木秀一 著  
内海靖 著

〔定價三・五〇〕  
〔送費一・九〇〕

○ ラスキンの經濟的美術觀

御木本隆三 著

〔定價三・二〇〕  
〔送費二・一〇〕

○ 動作ノイタヤサシイ唱歌

一集二集 現代一  
三集四集 流大家

〔定價各・五五〕  
〔送費各・〇二五〕

○ ダルトン式學習の實施經驗

吉田惟孝 著

近 刊

272  
61

終

